

星合操
官能の美学

星合操



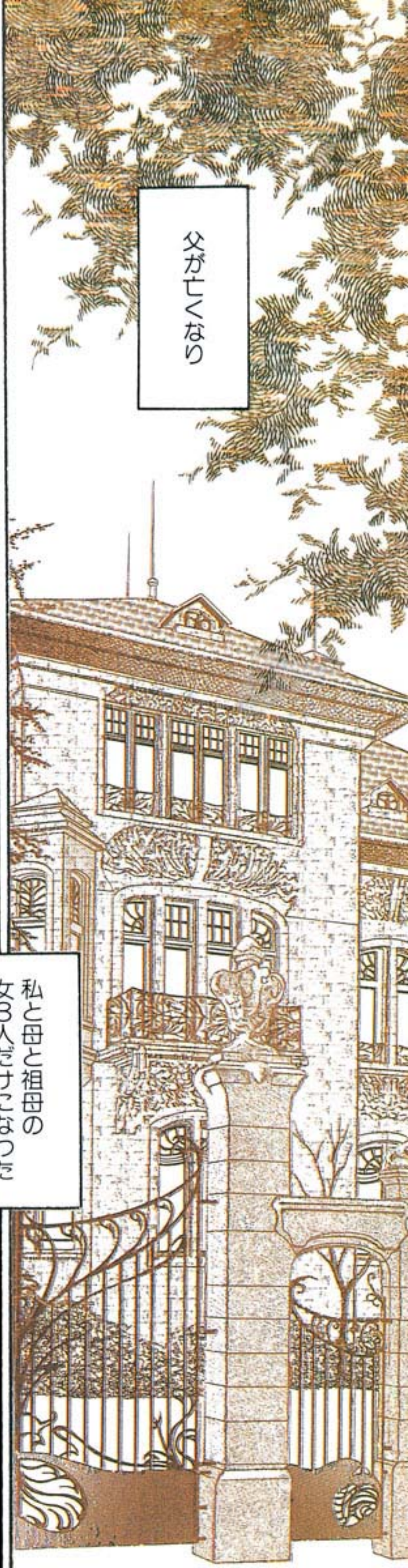
ユーリアの狩人



彼はやって来た



私と母と祖母の
女3人だけになった
この館に



父が亡くなる



おかあねがさ?!



母が突然
倒れた

父の49日も
まだの
ある日



小父さま

もう
落ち着いた
からね
心配は
いらな
いよ

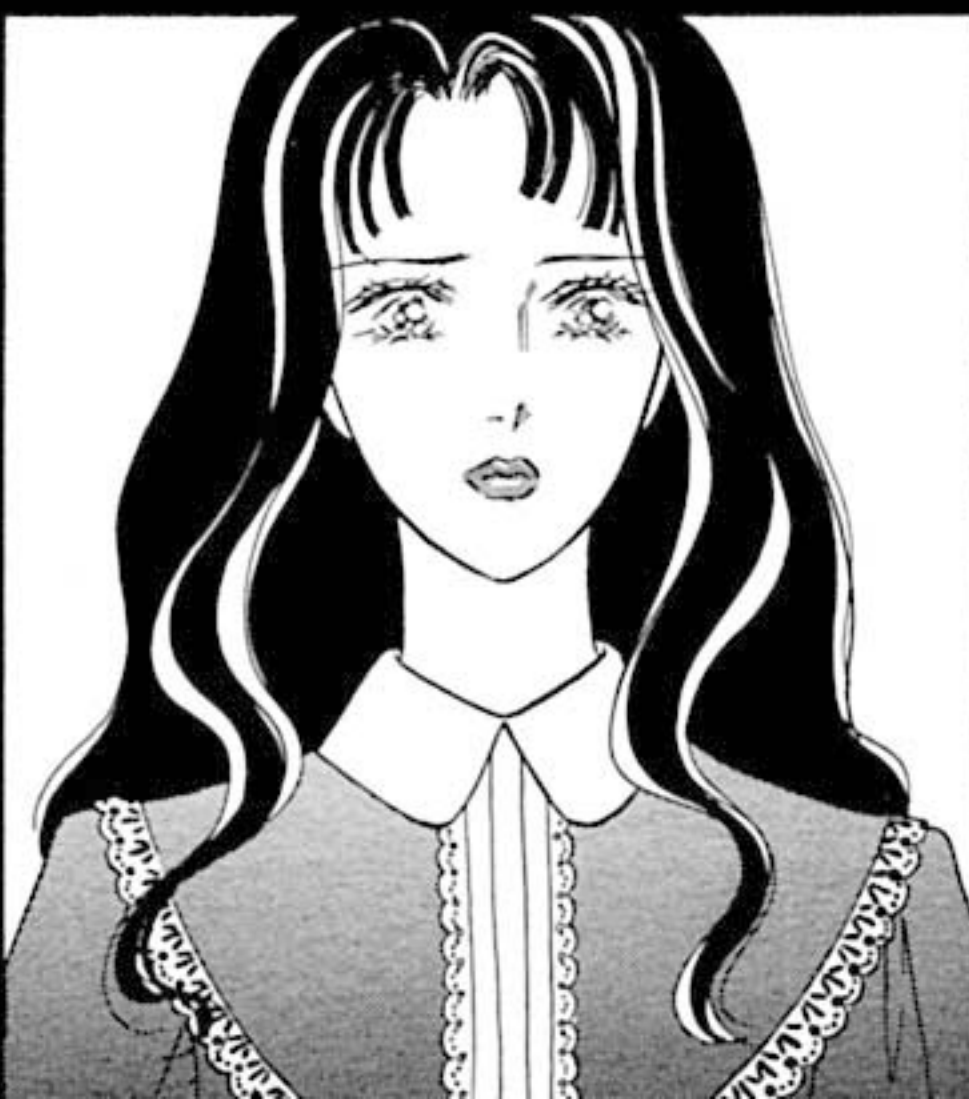


容子夫人は
もともと心臓が
少し弱いからね

ご主人の葬儀やらの
疲れが出たんだよ

母の主治医の
織作兼人

母の従弟である



翌日

その男は
やって来た

長身に
茶色がかつた髪を
光に晒し

中田透です

緊張した表情には
少年の繊細さが残り
用心棒と言つには
頼りない感もしたが

嬉しいわ

卵とはいえ
お医者さまが
ついていて
くださるなんて
心強いわ

母の
喜ぶ顔を見て
私はほっとした

この時
私はまだ
何も気づいて
いなかったから

昭和10年

私高須美百合は
徳川家の流れを継ぐ
旧家の一人娘だった

昨年
女学校を卒業してからは
毎日する事もなく
明治時代に出来たという
洋館で暮らしている

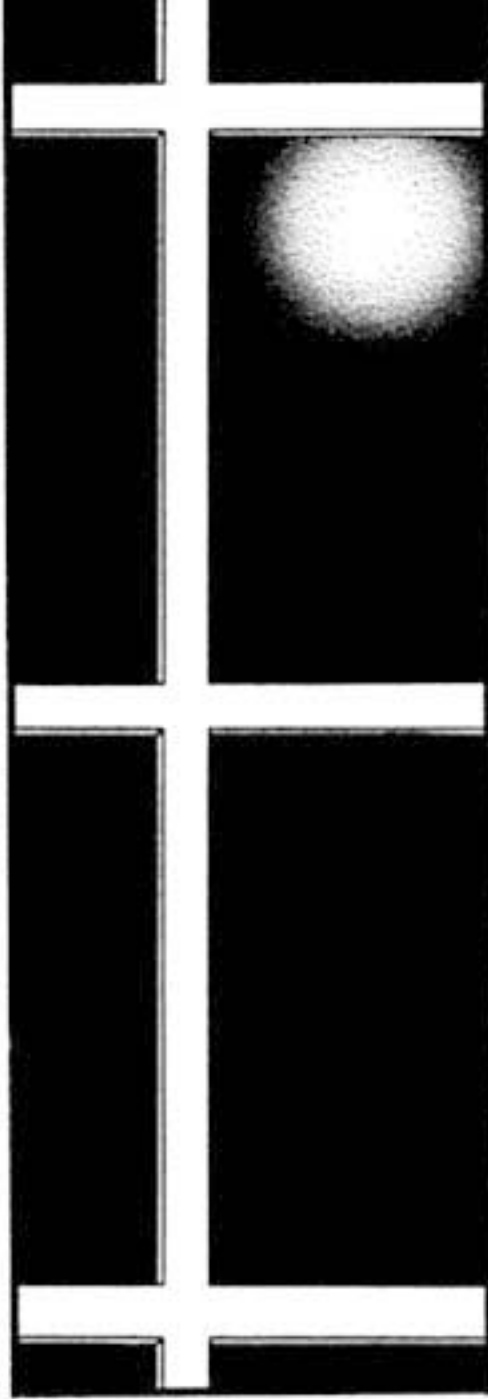
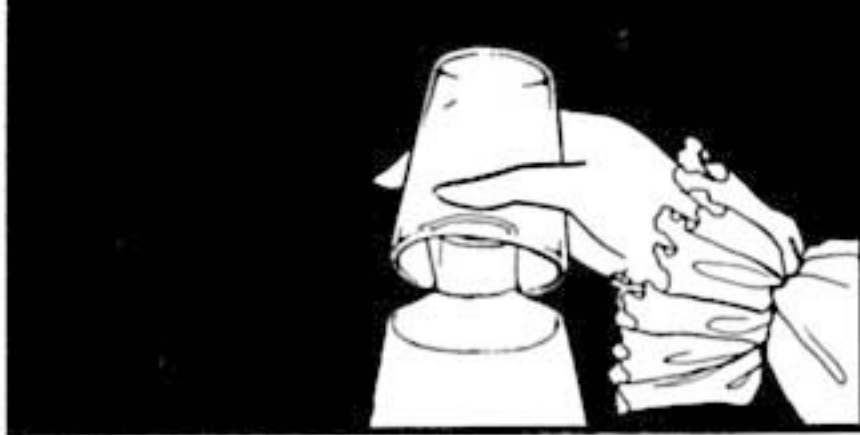
私の家は女系家族で
母も祖母も
華族のお姫さまとして
若い頃は
社交界の花形
だったという

著名人との
交遊も多く
館はいつも
来客者で
華やいていたが

父の喪中
母の病で

今館は
ひっそりとした
静けさに
包まれている





暑い空気は
肌につき刺さるような
冷たい夜だった

喉が渇いて
目を覚ました私は
水を取りに
寝室を出た

